



昭和30年から40年代の高度経済成長期、国内は観光ブームに沸いた。

十和田湖畔には、連日団体客を乗せた大型バスがやってきた。

十和田湖、奥入瀬溪流は、(財)日本交通公社の評価によると、わが国を代表する資源で、世界に誇示しうる最上級のものとして賞賛された。

しかし、旅行形態が団体型に比べ、個人型が主流になると観光客の入り込み数が減少に転じた。

今、市民、観光事業者、行政が連携し、地域の活性化に向けて新たな取り組みを進めている。



「七女の像」は、昭和二十八年、十和田湖に  
て建立された。この像は、十和田湖を初め  
ての彫刻の傑作として、  
その美しさを多くの人に知ってもらった。

昭和二十八年

「七女の像」は、昭和二十八年、十和田湖に  
て建立された。この像は、十和田湖を初め  
ての彫刻の傑作として、  
その美しさを多くの人に知ってもらった。

建立されて以来、十和田湖の観光のシンボル  
として、水玉にわたるその方々に親しまれ  
てきた。美しい自然環境の中で、信託されて  
制作された。この像は、十和田湖を初め  
ての彫刻の傑作として、  
その美しさを多くの人に知ってもらった。

昭和二十八年  
北村正夫